

教授の  
ヨノナカ考

もうひとつのシアトロン

社会で起こっている  
さまざまな事象を  
先生方が独自の  
視点で語ります。

外国語学部外国語学科  
いしだ ゆき  
石田 由希 准教授  
福岡女子大学大学院文学研  
究科博士後期課程修了。博  
士(英文学)。専門分野は演  
劇学、映画学。

英語の「シアター(演劇)」は、ギリシャ語の「シアトロン(見る場所)」に由来します。観客が同じ場所に集い、舞台上の役者に目を凝らす。これが演劇の基本形でした。ただコロナ禍において、この観劇法では三密を避けることが困難です。そのため、世界中の劇場が、オンラインでの配信に活路を見出しました。ネットを介した



ロンドンの劇場「グローブ座」のHPより、オンライン演劇版「ロミオとジュリエット」の告知画像

演劇は、二十世紀末から散見されますが、それが急速に普及したのは、二〇二〇年以降です。観客はネット上でチケットを購入し、公演の録画や中継を鑑賞します。あるいは、ロンドンの大手劇場が、過去の公演映像を無料公開し、ロックダウン中の市民に芸術を提供したこともありました。無論、画面越しの観劇には長短があります。例えば、生身の役者を肉眼で見ることが叶いません。他方、バリアフリー、国際性、字幕の充実、低価格、交通費や移動時間が不要といった利点もあります。パンデミック以降、多くの劇場の扉が閉ざされていますが、オンライン演劇の普及は、観劇のためのもうひとつの扉を、より多くの人々に開いたと思われれます。

NEWS

読書教養講座を開催しました

柚月 裕子さんが講演

2021年12月3日(金)、作家の柚月裕子さんを講師に迎え、「ミステリー小説流儀と作法」というテーマで読書教養講座を開催しました。今回の開催は、新型コロナウイルス感染防止のため定員を制限し、会場となった西南学院百年館(松緑館)には、約50人の教職員や学生、一般の聴講者が参加しました。

柚月裕子さんは、2008年『臨床真理』で第7回「このミステリーがすごい!」大賞を受賞し、作家デビュー。2013年に『検事の本懐』(文藝春秋)で第15回

大藪春彦賞、2016年に『孤狼の血』で第69回日本推理作家協会賞を受賞。また、2018年『盤上の向日葵』で「本屋大賞」2位。その他、代表作として、映画化され大ヒットした『孤狼の血』続編の『凶犬の眼』『暴虎の牙』などを出版し、活躍されています。

柚月さんは講演の中で、「小説を書く時は、舞台とする土地に自分が立って、その時に感じた感覚を大切にしている。その時に感じた匂いや音、空気などは私自身の中にしか存在しない。私の



感覚を丁寧に書くことで、きっと読者にも伝わると信じている」と小説を書く上で大切にしていることを語りました。

また、講演後には、学生とのトークセッションが行われ、参加者は熱心に聴き入っていました。

NEWS

【SIFA・SGS主催】  
西南学院大学国際交流50周年記念イベントを開催しました

2021年12月18日(土)、SIFA(Seinan International Friendship Association)\*1とSGS(SEINAN Global Society)\*2が、本学の国際交流事業開始50周年を記念したイベントを西南コミュニティセンターとオンラインで同時開催しました。

本学は、1971年に国際交流事業を開始し、今年50周年を迎えました。現在、国際交流協定校数は33カ国102大学まで拡大し、これまでの海外への派遣学生は1573人、海外からの受入れ学生は1699人を数えます。イベント当日は、国際交流事業50周年を記念したシンポジウムと、在学生・高校生向けの本学の留学制度についての説明会を行い、会場とオンライン合わせて63名が参加しました。

シンポジウムは、SIFA代表・外国語学部 宮原哲教授をファシリテーターに2部構成で行われました。1部では「米仏2カ国、8大学から30カ国、100大学へ」と題し、派遣留学を経験し、現在、国際的に活躍する卒業生と本学に留学経験のある元留学生の6名をオンラインでつなぎ、西南での留学経験やその経験を生かした現在の姿、留学から得た学びなどをそれぞれが報告しました。



続いて2部では、これまでの50年の歴史を振り返りつつ、派遣留学を経験し、様々な分野で活躍する卒業生、学外関係者の5名が「西南学院大学国際交流の“果実”と“課題”」というテーマに基づき、それぞれの立場、視点から報告。本学の国際交流事業が果たしてきた意義と役割、そして今後の大学に期待することなどが語られました。

今回のイベントは、これまでの本学の国際交流事業がどのように個人に影響を与え、社会に還元してきたかを振り返り、これからの本学の国際交流のあるべき姿について考える大変貴重な機会となりました。本学は、今後も国際交流をさらに活性化させ、国内外で活躍する人材の育成に寄与していきます。

\*1: SIFA (Seinan International Friendship Association)とは、西南学院大学から派遣留学や語学研修などの留学プログラムに参加した方や、西南学院大学に留学した海外の学生、その他、西南学院大学の国際交流等に関わる方々のコミュニティです。  
\*2: SGS (SEINAN Global Society)とは、国際交流イベントを企画・運営する本学国際センターの公認学生団体です。2018年11月より活動を開始し、日本人学生と留学生の相互交流を促進し、キャンパスの国際化を推進するために活動しています。

NEWS

外国語学部・森喬士さんが「FLS-Insight」による  
国内留学を開始します

外国語学部2年・森喬士さんが、2022年4月より、「FLS-Insight」による東京外国語大学への1年間の国内留学を開始します。森さんは、本制度を活用して国内留学する「初」の学生です。

FLS-Insightとは、外国語学部が実施する“外国語学の学びをさらに深化させる学術的な国内留学システム”のことで、3年次以上の外国語学部学生を対象(応募要件、選考あり)とする半期または1年間の東京外国語大学への国内留学制度です。学生は自分の興味に応じた科目を受講可能で、所定の単位を修得した場合は本学を4年間で卒業することができます。

森さんは、「将来、英語圏文学を学ぶために海外留学したいと考えており、その分野の科目が充実している東京外国語大

で学べるFLS-Insightに魅力を感じ、挑戦することにした。4月からの1年間という短い期間ではあるが、興味のある科目を深く学び、また、東京外国語大という全国各地から学生が集まるキャンパスで、周りの学生と積極的に交流し切磋琢磨したい」と目標を述べました。

「国内留学後は本学の派遣留学制度にもチャレンジしたい」と語る森さん。FLS-Insightで学びを深め、将来は世界に羽ばたいていくことが期待されます。

